The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	「感謝」
Author(s)	松元, 清美
Citation	井戸武實の歩みと追悼集. 2025, p. 33-34
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/100734
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

「感謝」

松　元　清　美

元大阪府藤井寺保健所企画調整課長
河内長野市医師会地域連携室

「井戸さん ２番に電話！」

「は～い」

執務室内に響き渡る大きな声とともに右手を挙げる井戸さん。

真っ先に思い浮かぶのはこの光景である。

また、いつ何時、声をかけてもニコニコした笑顔で対応してもらった。「あっそう」「あっそう」と聞き上手でもあった井戸さん。私は、一緒に働いた中で井戸さんが怒った顔や悲しい顔をしたことを見たことがない。

さて、私の入職当時「公衆衛生」って？学生時代机上で習っただけで何も知らなかった。本庁には「結核係」という部署があった。一つの病名で一つの係ができている。「なんで？」保健所で診療放射線技師が「何するの？」私は、診療放射線技師の資格で採用になったはずだが・・・

そんな戸惑いの中、私は、藤井寺保健所に配属になり、「はと号」で中零細企業を巡回し胸部エックス線撮影を行う業務についた。この「はと号」がすごい！従来の検診車のイメージがない。狭い路地にある事業所にも入って行けるよう２トントラック並みのコンパクトな検診車である。撮影時には、天井にあるハッチを押し上げ高さを確保する。また、検診は間接撮影が主体であったが直接撮影もできる優れものでもあった。直接撮影では、エックス線管が移動・回転して焦点間距離を確保する。「はと号」は井戸さんをはじめ諸先輩方が工夫・設計した代物であった。よくこのようなカラクリを考えついたものだ！

当時、検診受診率が低かった中零細企業の従業員から「結核」の発症が多い中、早期発見・早期治療を目的に「はと号」は造られたと聞く。行政がここまでする？大阪は結核罹患率が高すぎたのだ。なるほど、「結核係」は必要な組織体だったのだ。その結核係の係長をされていたのが井戸さんだった。

「大阪に井戸あり」―――後に全国保健所放射線技師会で聞いた声である。井戸さんは、結核研究所とも深いつながりがあり、毎年、長期研修への派遣予算を確保し後輩の育成・教育にも力を入れてくださった。私は、長期研修に行かしてもらった一人でもある。「公衆衛生」がいかなることかわからなかった私に「結核」を通して勉強する機会を与えてくださった。これを機に胸部エックス線撮影や菌検査などから「公衆衛生施策」に興味を抱くことができた。

大阪の結核罹患率が減っていく中、また、生活習慣病予防のために健康診断の内容が充実・受診率が向上したことから、やがて行政が行う「はと号」の役割は終わりを迎えることとなる。撮影業務は

減っていったが、「公衆衛生」特に「感染症対策」においては、これまで保健所の診療放射線技師が培ってきた経験と知識を発揮することができた。現在、保健所においては、「地域保健課長」の職に就いている診療放射線技師もいる。診療放射線技師が「公衆衛生」を担う一員として認められてきた証である。これも一重に井戸さんをはじめ諸先輩方から引き継いだ教えそのものではないかと考えている。

井戸さんは、大阪府を退職されてもあいりん地区の結核対策に関与されるなど生涯を通じて「結核」と向き合われた。「公衆衛生の鑑」かとも思う。また、井戸さんの活動は、大阪府の結核罹患率が減ってきた大きな功績の一助となったのは間違いない。

「井戸さん ２番に電話！」

・・・返事がない・・・

最後になりましたが、井戸さんのこれまでのご功績を称え、お悔やみと感謝を申し上げます。

「井戸さん、あなたの後輩は、あなたの意思を継いで活躍していますよ。安心してください。」

「井戸さん、私を育てていただきありがとうございました。」